



はじめに「鋳物」ってなに？

導入として、包丁・やかん・たこ焼き器など、身の回りの金属製品 10 種類のカード (A3 サイズ) から、鋳物なのか、鋳物ではないのか当てるゲームをして、関心を引き出します。裏面には正解と、簡単な解説文があります。



1 「鋳物」はどうやってつくる!?

鋳物は、製品の形に内部に空間をつくらせた鋳型という型に、高温で溶かした金属を流し込んでつくります。鋳物づくりのモデル (釣のおもり、分銅、昔の通貨) を、実際にさわってみることで、鋳型と製品の関係が理解できます。



2 金属はどうやって溶かす!?

金属を溶かすには、「^{こしき}甌」という溶解炉と、「^{たたら}踏鞴」などの送風機が必要です。足踏みふいごで、踏む動作で風を起こす体験ができます。また、甌や踏鞴が描かれた江戸時代の資料を絵巻物風にした教材を広げ、作業風景を見ることができます。



3 型はどうやってつくる!?

ひきかた「挽型」と「真土」をつかって鍋をつくるミニチュア模型と、工程カードで、回転体の鋳型のつくり方が理解できます。また、火鉢、鍋、釜のおかしの鋳物カードで、製品と挽型の形の比較と、製品がおかしの暮らしでどのように使われたのかを学ぶことができます。

箱をあければ、発見がある!



4 大きな鋳物はどうやってつくる!?

資料館に展示している、重さ 100 貫 (約 375 kg) の梵鐘 (釣鐘) の実物大写真と、吊り下げる部分「^{ぼんしょう}龍頭」の実物大レプリカ (3D プリント) で、梵鐘の大きさを自分たちと比べて実感できます。また、図で梵鐘の鋳造工程を学べます。

写真の教材が、表紙のスーツケースに全て入っています。